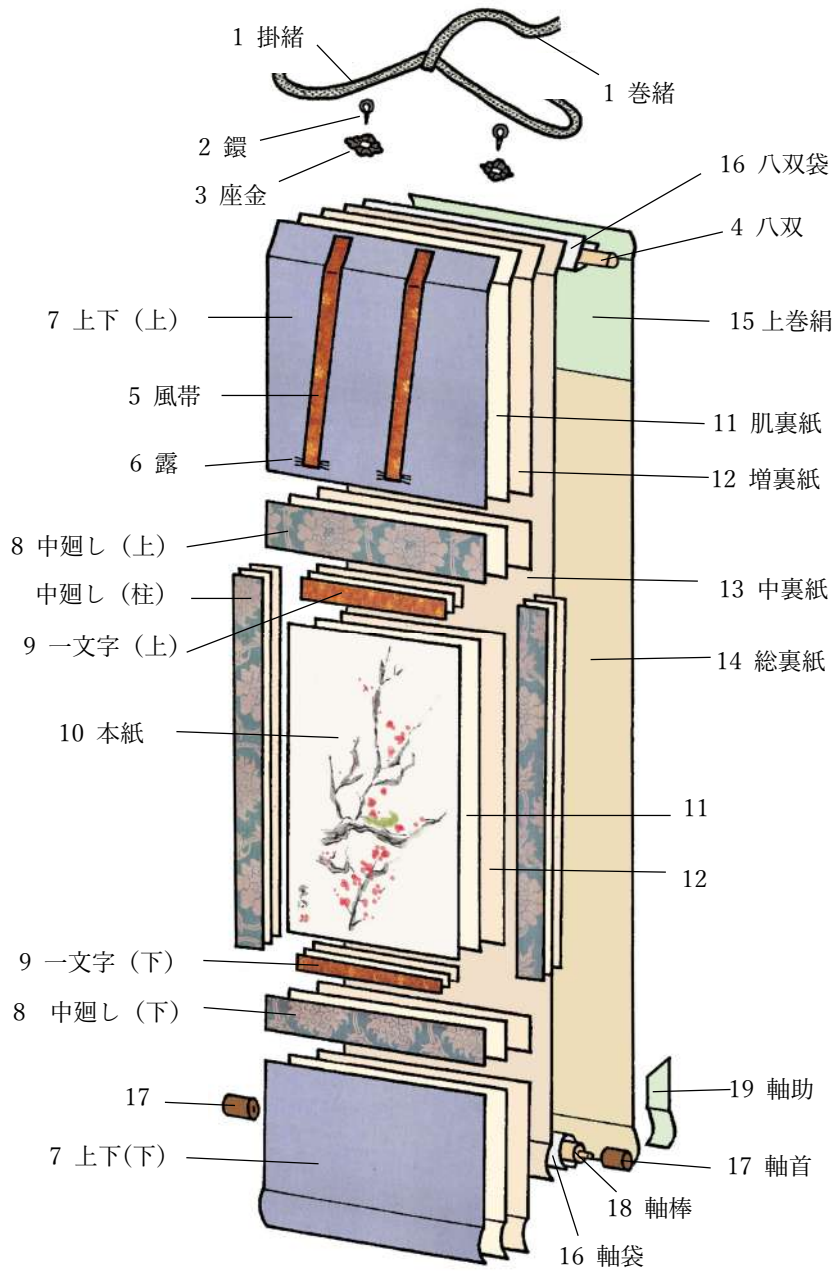







掛軸の構造と材料

掛軸の構造



掛軸の材料

	名 称	写 真	解 説
1	かけお 掛緒  まきお 巻緒		掛緒は八双に付けられた環に結びつけられ、掛軸を掛具に掛ける紐。巻緒は掛緒に付けられ、掛軸を巻きとめる紐。掛緒と巻緒の材料は同じ組紐が用いられ、「啄木（たくぼく）」と呼ばれる三色の糸を使った平紐や無地の平紐が用いられる。様々な紐幅があり掛軸の大きさに合う太さのものが選ばれる。
2	かん 環		掛軸を吊り下げるための掛緒を結びつける金具。頭部を環状にした釘で、八双に打込んで取付ける。素材は鉄や銅、真鍮等。座金と合わせて使用する。

3	ざがね 座金		中心部に穴が開けられた飾り金具。鋳をこの穴に通して八双に打込む。素材は鋳と同じ。形状は菱、丸みを帯びた木瓜（もっこう）、菊等がある。
4	はっそう かみじく 八双/上軸		掛軸の最上部に取り付ける棒で、ここに鋳を打込む。掛軸を掛けた際に平らに見えるようにしたり、巻いた際に巻き終わりの押さえになる。素材は軸棒と同じ杉が用いられる。断面は半円形が多いが、丸みを帯びた三角形等もある。
5	ふうたい 風帯		掛軸の上/天の部分に下げる 2 本の帯。表側は一文字や中廻しと同じ裂、裏側は上下等の薄手の裂が使われることが多い。風でなびくことによって鳥よけとしたものが形式化したものという説もある。
6	つゆ 露		風帯の下部の両脇に付けられた小さな房飾り。素材は撚っていない絹糸が使用される。主に白色が用いられるが色糸が使われることもある。
7	じょうげ／てんち 上下/天地	 表装裂	表装（表具）。様々な裂（無地裂、緞子（どんす）、金襴（きんらん）等）や和紙が用いられる。表具の形式も様々なものがある。材料や表具形式は本紙に合うものを選ばれる。
8	ちゅうまわ 中廻し		
9	いちもんじ 一文字		
10	ほんし 本紙		紙や絹が用いられ、本紙の材料に応じ、紙本、絹本などと呼ばれる。
11	はだうらかみ 肌裏紙		本紙や裂を支えるために最初に裏打ちする際に使用される和紙で、薄美濃紙が多く用いられる。薄く柔軟だが丈夫な楮紙。糊はしっかり接着するように新糊（生麩糊）が用いられる。 全紙の大きさ 約 90 cm×60 cm
12	ましうらかみ 増裏紙		肌裏打ちの次に行う裏打ちに使用される和紙で、美栖（みす）紙が用いられる。紙繊維に胡粉を混ぜて漉き、压榨せずに乾燥させた柔らかい楮紙で、様々な厚さがある。補強や厚み調整、柔軟性を持たせるために使用する。糊は掛軸が柔らかく仕上がるように古糊（生麩糊を 10 年程度寝かせた糊）が用いられる。 全紙の大きさ 約 65 cm×25 cm
13	なかうらかみ 中裏紙		増裏打ちが済んだ本紙や裂を継ぎ合わせて一体化させた後に行う、中裏打ちに使用される和紙。増裏紙と同じ美栖

			（みす）紙が用いられる。糊も増裏打ちと同じ古糊が用いられる。中裏打ちは省略されることもある。
14	そうらかみ 総裏紙		中裏打ちの後、最後の総裏打ちに使用される和紙で、宇陀（うだ）紙が用いられる。紙繊維に白土を混ぜて漉いた楮紙。総裏打ちは掛軸の裏面の仕上げになる裏打ち。糊は掛軸が柔らかく仕上がるように古糊が用いられる。 全紙の大きさ 約 1m44.5 cm×32.5 cm
15	うわまきぎぬ 上巻絹		掛軸の裏面の最上部の薄青色や薄緑色等の透けるような平織の薄絹。総裏打ちの際、裏打ちを施したこの薄絹を最上段に裏打ちする。掛軸を巻いた際に外側になる部分で、和紙の毛羽立ちや手擦れ、紐の擦れ等から掛軸を保護する。
16	はっそうぶくろ 八双袋  じくぶくろ 軸袋		総裏打ちをする際に、八双や軸棒を入れる場所を確保するために置く、二つ折りにした厚手の和紙。これを所定の位置に置いて総裏打ちをする。仕上げの際に、二つ折り部分を開いて八双や軸棒を入れて取付ける。
17	じくしゅ じくさき 軸首/軸先		軸棒の端の保護と装飾、掛軸の巻き解きの手がかりを兼ねて取付けられる。素材は、木（紫檀・黒檀・漆塗り）・象牙・角・水晶・金属（金メッキ）等が使用される。形状は円柱形の切軸や、先端が広がった撥（ばち）軸等、様々な形状や大きさがある。本紙に合うものが選ばれる。軸首の裏側には穴が穿たれており、軸棒の両端の突起と合わせて膠等で接着する。
18	じくぼう 軸棒/  しもじく 下軸	   金属が埋込まれた軸棒 	掛軸を巻く際に芯になり、掛軸を掛けた際は平らに見えるようにするための最下部の棒。素材は杉が用いられることが多い。太さは様々なものがある。軸棒の両端は、軸首の裏側の穴に合わせて丸い突起を削り出して使用するが、先端を削らず小口どうしを接着した簡易なものもある。古いものでは掛軸を掛けた際に巻き戻らないように、軸棒の中心部に鉛等の金属を埋込んで軸棒を重くしたものもある。また、表面に表具師や施主の名前、製作年等の墨書が残されていることもある。
19	じくたすけ 軸助		掛軸の軸棒部分が重みや取扱いで裂けるのを防ぐために、掛軸の裏面下部に貼る補強用の薄絹の小片。材料は上巻絹と同じ。総裏打ちの最後に所定の位置に貼る。様々な形状がある。

参考文献 「表具の事典」編集・発行 協同組合京都表装協会

「装潢文化財の保存修理 東洋絵画・書籍修理の現在」編集・発行 国宝修理装潢師連盟